

40周年を迎えて



東北地質調査業協会 理事長
永井 茂

東北地質調査業協会は、昭和34年（1959年）1月17日20社が集まり、現在の協会の前身である東北ボーリングさく井協会を設立致しました。その後全国各地の協会の要望により、昭和37年上部団体である全国地質調査業協会連合会が結成され、それを契機として昭和38年（1963年）10月名称も現在の東北地質調査業協会に改称致しました。

創立以来本年度で満40年を迎えることになりまますこの間暖かいご指導、ご支援を頂きました発注諸官庁の皆様にお礼申し上げます。また発足以来協会活動にご活躍頂いた諸先輩役員をはじめご支援を頂いた会員の皆様に対して衷心より感謝申し上げる次第であります。

現在会員数は102社と100の大山を越え大変隆盛な地区協に発展してまいりました。

協会の組織の課題として県単位の組織との間につながりが無いことがあげられます。上部団体である全地連は各地区協それぞれに事情があり組織の問題の指導は出来ないとしていますが、各県協会の積極的な参加をお願いし、総合的な組織力の強化と拡大により、更に魅力ある協会へ発展させて行くべきと考えております。

当協会は現在、総務委員会・厚生委員会・技術

委員会・研修委員会・広報委員会・積算委員会の各委員会を中心となり積極的に事業活動を行っております。

特に重要と考えられるものとしましては、会員の技術力向上のための企画として、地質調査技士検定試験事前講習会と地質調査技士資格検定試験の実施、地質調査技士登録更新講習会があります。またRCCM受験講習会、年二回行われる若手技術者セミナー等があります。次に発注者に対するPRも兼ね地質調査を理解していただくための全国積算資料説明会を毎年二県ずつ行っており、従って各県は3年に一回廻ることになりますが多数の方々のご参加を頂き大変好評であります。また協会の機関誌「大地」も年毎に内容が充実してまいりました。

入札・契約制度の改革、建設市場の国際化、コスト縮減への社会的要請など建設産業を取り巻く環境が大きく変化する中で、協会の果たすべき役割は大変重要になってきております。

我々はこの40周年を機に、今日まで多くの先輩が築かれた輝かしい足跡を、しっかりと受け継ぎ、心を新たにして次の50周年、60周年へと更に大きく発展して行きたいと願うものであります。